

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：34415

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520445

研究課題名(和文)中国江南唱導文藝研究 - 上演・テキスト・信仰 -

研究課題名(英文)Studies on Advocative Literature in Jiangnan Region of China:Performance,Text and Religion

研究代表者

松家 裕子 (Matsuka, Yuko)

追手門学院大学・国際教養学部・教授

研究者番号：20215396

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：この研究では、宝巻をはじめとする中国の唱導文藝・口承文藝のテキストを、それを取りまく状況のなかでとらえなおすことによって、より正しく豊かな読みに近づくことを主たる目的として、江南地区のうち、浙江の紹興宣巻と金華道情およびブ[務+女]劇を対象に、実地調査と文献調査を行なった。

その成果として、宝巻や金華道情など、いくつかのテキストの読み解きの成果を発表するとともに、紹興宣巻と信仰とのかかわりについて、あらたに「孤魂の慰撫」という視座を導入し、またブ劇の村落共同体の儀礼としての上演を清朝宮廷演劇との共通性に注目して分析するなど、新しい解釈の方法をいくつか提出することができた。

研究成果の概要(英文)：In these studies we did literature investigations and fieldworks at two districts of Zhejiang, Shaoxing and Jinhua. Our main purpose is to gain correct and more manifold reading of the text of Chinese advocate literature and oral literature. So we chose Shaoxing Xuanjuan, Jinhua Daoqing and Wuju as our main target. As the results, we published several Japanese translation and interpretation of the text of Baojuan (Precious Volumes) and Jinhua Daoqing. We also submitted some new perspectives or ways for interpreting these text, such as: Shaoxing Xuanjuan has the important religious function to console souls that have died unnatural death and Wuju performance as the ritual of village community has commonality with the theatrical performances at the Court of Qing dynasty. You can get our reports (pdf, Japanese) by contacting matuka@res.otemon.ac.jp.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、各国文学・文学論

キーワード：中国文学 唱導文藝 宝巻 宣巻 紹興 金華 道情 ブ[務+女]劇

1. 研究開始当初の背景

(1) 宝巻と宣巻 中国では、唐あるいはそれ以前のむかしから、宗教的な性格をもつ、うたと語りによる文藝が行われ、文化史上に大きな位置を占めてきたと考えられる。しかし、口承文藝の常としてその実態がなかなか知られない。元明の間に生まれた「宝巻」もそのひとつであるが、これは時代が下ることもあって、現存のテキストが豊富にあり、また宝巻をテキストとする宗教儀礼であり芸能であるところの「宣巻」が、現在まで行われている。

(2) 中国の研究と日本の研究 この宝巻は、民国時代、顧頡剛など中国を代表する学者らとその価値を認め、近代的な研究がはじめた。しかし、その卑俗性と宗教性のために、20世紀の中盤から後半にかけて、中国では研究があまり進まなかった。第一人者、車錫倫教授のものをはじめ、宝巻や宣巻の研究の成果が積極的に刊行されはじめたのは、世紀の変わるころからである。

一方、日本には民俗学や唱導文藝が重視される土壌があって、宝巻への関心が高く、澤田瑞穂が早い時期に、宝巻研究の必携書『増補)宝巻の研究』を公表した。改革開放政策が進んだ1990年代以降、日本のいくつかのグループや個人が、宣巻の実地調査を積極的に行なっている。

(3) 磯部祐子の紹興における実地調査 そのひとりが本研究のメンバーである磯部祐子で、1990年代から浙江省紹興において、紹興宣巻その他の口承文藝の調査・研究で行なっている。本研究の出発点がこれである。

(4) 前回研究 磯部の調査・研究に、これまで口承文藝に大きな関心を払いつつ、主として文献によって文学研究を行なってきた小南一郎と松家裕子が加わるかたちで、本研究の前身「中国近世唱導文藝研究 江南地域における実態調査(2008年度~2010年度、科学研究費・基盤研究(C) 課題番号 20520341、研究代表者:松家裕子、以下「前回研究」)が始まった。この前回研究では、実地調査を2008年11月(浙江省平湖)、2009年3月(同紹興)、2010年3月(紹興) 同11月(紹興)の4回行い、また文献調査を首都図書館(北京)や早稲田大学附属図書館風陵文庫など図書館の蔵書や刊行された書籍によって行った。その成果は、『中国近世唱導文藝研究 一江南地域における実態調査』(当該科研費研究冊子体報告書、2011年3月)として刊行した。

(5) 前回研究から本研究へ 上記の実地調査では、予想をはるかにこえて大きく豊かな収穫が得られた。しかし、限られた時間、限られた期間の調査では、その圧倒的な情報量に対応できないことも痛感された。調査において発見された問題も山積していた。こうして本研究が始まった。明清期江南の社会史の専門家である要木(佳美)が、協力者として加わるようになった。

2. 研究の目的

(1) テキストのより正確かつ豊かな読み解きをめざして 上演・テキスト・信仰 こまかな問題は上述のように山積していた。しかし、研究の最大の目的は、テキストをより正確に豊かに読み解くことであった。これはメンバー3人みなの研究の出発点が、中国文学にあることともかかわっている。ここにいうテキストの読み解きとは、字句の解釈のみではなく、作品のもつ社会的な機能までを視野に入れた広い意味でいっている。本研究の副題、「上演・テキスト・信仰」もこのことを示している。

(2) 大目的 中国文学史・中国文化史全体のなかで 宝巻についてこのような読み解きができれば、その成果は、中国文化史において低く見積もられがちな唱導文藝また口承文藝が果してきた役割を、実態に即してとらえなおすことにもつながり、中国文学史、中国文化史のより正しい理解にも資すると考えられた。

(3) 紹興宣巻 テキストとテキストを取り巻く状況

調査・研究の対象は、前回研究と同じく、「紹興宣巻」にすえた。上記(1)(2)に照らして、具体的な目的を以下に記す。

目的 1 一紹興宣巻テキストの内容・表現と特徴 紹興宣巻のテキストである宝巻と図書館に蔵されている宝巻の両方を読みまた対照させることによって、紹興宣巻のテキストがどのような特徴を有するか、それは何に由来しているのかを、明らかにする。

目的 2 一テキストと信仰とのかかわり テキストはその背景にある信仰とどのようにかかわっているのかを、明らかにする。中華人民共和国では現在も民間信仰を抑圧する方向に力が働くことが多く、信仰の実態を把握することがむずかしい。テキストの内部で称えられる神と、宝巻が捧げられている神が異なったり、また、宣巻にかかわっている人々が信仰をあらわにしないことも多い。宝巻に特徴的な地獄めぐりのモチーフなどにも注目して、紹興宣巻の宗教性の問題を明らかにする。

目的 3 演目はなぜ「三包」に集中するのか にもかかわるが、現在、紹興宣巻では、伝説の名判官、包公(包拯)を主人公とする3つの宣巻(「三包」)が行われることが圧倒的に多い。これはなぜなのかを明らかにする。

(4) 紹興宣巻以外の唱導文藝・口承文藝より正確な把握のために 中国の唱導文藝・口承文藝のありかたをできるだけ正しく把握するために、また比較をつうじて紹興宣巻をよりよく理解するために、紹興宣巻以外の唱導文藝・口承文藝についても調査を行ない、その上演・テキスト・信仰について知る。これについては、当初、前回研究で調査を行なった平湖の鉸子書および太保書を予定していたが、本研究の途中で、同じ浙江省のな

かで、口承文藝の盛んな金華に調査の協力者が見つかったので、金華の道情および婺劇を対象とすることになった。

(5) もうひとつの目的 記録すること

中国は大きな社会変化のただ中にあり、宣巻をはじめ唱導文藝・口承文藝のありかたも今後、おそらく急速に変化していくことが予測される。前回調査から、テキストの撮影(静止画)、上演の撮影(動画)を積極的に行っている。この時期のこうした記録は、文字として残す報告・論文・翻訳とともに、今後の研究に大いに資するとともに、後世への大きな遺産ともなるはずである。

3. 研究の方法

(1) 本研究の方法上の特色 文献調査と実地調査の総合 実地調査と文献調査は甚だしい場合には対立するもののように扱われることもある。本研究は、これらの両方を行なって、その結果を総合的に分析・考察することを方法上の特色とする。

(2) 実地調査1・紹興宣巻 紹興宣巻について、以下の調査を行なった。

2012年9月浙江省杭州市 調査者：小南、要木(藤田)、松家。a 日時：9月18日(金)9:30ごろ~15:30ごろ 場所：浙江省杭州市 杭州師範大学・之江キャンパス 内容：紹興市郊外の安昌鎮から、何雲根(芸名、何宝宝)さんひきいる宣巻グループ「大和班」を杭州の大学に招き、宣巻の上演と聞きとり調査を行なった。上演は『割麦宝巻』(一部)と『太平宝巻』(一部)。調査協力者：ア 顧希佳先生。杭州師範大学研究員(教授と同等)。イ 大和班のメンバー(何雲根さん。包百寿さん。胡林栄さん。蔡金興さん。)ウ 杭州師範大学の諸先生方。ちょうど、日中のあいだで尖閣諸島の問題が先鋭化していたときであった。それにもかかわらず、みなさん協力を惜しまれなかったことをとくに記しておきたい。

2013年11月 浙江省紹興市紹興県錢清鎮・安昌鎮 2010年3月に調査を行なった錢清鎮新甸村を再訪。また、2012年9月、杭州で調査を行なった大和班の地元、安昌を訪ねた。a 日時：11月2日(土)7:00~16:00 場所：浙江省紹興市紹興県錢清鎮新甸村の翁栄慶さん自宅 調査者：磯部。内容：翁栄慶さんらによる『雙花宝巻』(全本)の宣巻に立ち会い、あわせて聞きとり調査。調査協力者：ア 宣巻先生(翁栄慶さん、翁文来さん、汪関鋒さん、葛来仁さん)。イ 翁元君さん。翁栄慶さんのご子息。小学校教員、宣巻の研究者。案内。b 日時：11月3日(日)8:00~16:00 場所：浙江省紹興市紹興県安昌鎮大和郷前盛陵村 何雲根さん自宅 調査者：小南、磯部、要木(藤田)、松家。内容：大和班による『太平宝巻』(全本)の宣巻に立ち会い、あわせて聞きとり調査。2012年9月の杭州における調査で、『太平宝巻』が「小目連」と呼ばれることがわかり、『太平宝巻』

が特別な意味・機能をもつことが推測された。そこで、何雲根さんたち大和班に、『太平宝巻』全本の上演を依頼して実現した。調査協力者：ア 宣巻先生(何雲根さん。包百寿さん。胡林栄さん(以上大和班)。戚金九さん(フリー))。イ 何興泉先生(杭州師範大学教授)。何雲根さんの長男。事前の連絡はすべて何興泉先生をつうじて行った。ウ そのほか、多くの何家の人々。何家近隣の人々。c 日時：11月4日(月)午後(1時間程度) 場所：浙江省紹興市紹興県安昌古鎮清風戲曲曲芸団(安昌古鎮入口) 調査者：小南、要木(藤田)、松家。内容：偶然見つけた業余の劇団で、団長の賈利栄さんから、紹興宣巻のほか、紹興蓮花落や越劇の上演について、聞きとり調査を行ない、資料提供を受けた。安昌古鎮では、宣巻を含む、多くの民間芸能が行われており、とくに、元旦(新暦正月)3が日に大きな催しがあるということであった。「祝福」という種類の芸能もあり、魯迅の「祝福」にちなむということであったから、たいへん興味深い。調査協力者：賈利栄さん。

(3) 実地調査2・金華道情および婺劇 金華道情および婺劇について以下の調査を行なった。

2012年2月~3月 浙江省金華市および麗水市遂昌県 浙江師範大学の先生方の協力による、金華道情および婺劇の調査。調査者：磯部、要木(藤田)、松家。a 日時：2月29日(火)午前、場所：浙江省金華市金東地区、張根芳先生のご自宅。内容：金華道情についての聞きとり調査(実演つき)。調査協力者：ア 張根芳先生。情報・資料提供者。金華市金東区文聯主席。金華道情、婺劇、民間伝承など金華の民間文藝の現地研究者。イ 蔣小玲先生(浙江師範大学)。同行、案内。ウ 謝さん(ファーストネーム省略)。金華道情実演。業余の金華道情芸能者。b 日時：2月29日(火)夜 場所：浙江省麗水市遂昌県二都街村 会堂 内容：村芝居としての婺劇の調査。上演の一部始終に立ち会い、劇団員や観客を対象に聞きとり調査も行った。浦江県婺劇団による公演で、演目は「鬧花台」「文武八仙」「泗州城」「情義状元」。調査協力者：李聖華教授(浙江師範大学)。c 日時：3月1日(木)午後 場所：浙江省金華市 金華市芸術研究所(城隍廟内) 内容：婺劇についての聞きとり調査。資料収集。調査協力者：ア 包昇華先生。情報、資料提供者。金華市芸術研究所長。婺劇の俳優、研究者。イ 蔣小玲先生(浙江師範大学)。同行、案内。d 日時：3月1日(木)夜 18:00~ 場所：浙江省金華市 古子城地区(旧城内)のレストラン「金華府酒酒莊」 内容：レストランで来客に提供されている金華道情の上演に接し、芸能者にたいして聞きとり調査。調査協力者：銭さん(ファーストネーム省略)。金華道情芸能者。

2013年3月 浙江省金華市 と同じく、浙江師範大学の先生方と張根芳さんの協

力により、金華道情と婺劇の調査を行なった。調査者は、磯部、松家。 a 日時：3月25日(月)午前 場所：浙江省金華市郊外の農村、曹宅(地名)北麓書院(金東区曹宅鎮文化活動センター)。内容：地域の文化センターで上演されている金華道情に接し、あわせて現地研究者や芸能者に聞きとり調査。調査協力者：ア張根芳先生(上記 ア参照)。情報提供者、案内者。イ盛根旺先生。情報提供者。金東区曲芸家協会主席。ウ傳さん(ファーストネームは省略)。金華道情の芸能者。盲目。エ張月欣さん(浙江師範大学院生)。同行、案内。 b 日時：3月25日(月)午後 場所：浙江省金華市郊外の農村、壇裏鄭村の広場。内容：村民の抛出によって招いた劇団による、仮設舞台での村芝居の公演に接し、観客に聞きとり調査。縉雲県利鑫婺劇団による公演で、演目は、『血濺烏沙』。調査協力者：張月欣さん。同行、案内。

(4) 文献調査 文献調査については、宝巻、紹興宣巻および宣巻全般、金華道情、婺劇、社会史に分けて述べる。

___宝巻 宝巻のテキストは、a 実地調査で入手(撮影)したもの、b 日本・中国・欧米の図書館に所蔵されているもの、c 影印あるいは書き起こして刊行されたもの、があり、これらを利用して、読み解きを行なった。bについては、2011年8月に松家がロンドンのSOAS図書館および大英図書館、2012年9月に松家、小南、要木(藤田)が浙江図書館、2013年11月に松家が上海図書館で、各図書館蔵の宝巻を調査した。

___紹興宣巻および宣巻全般 宣巻の調査報告と研究成果は、近年、中国、日本、欧米の研究者がそれぞれ積極的に発表しており、これらを参照しつつ研究を進めた。2013年2月・3月には、松家がR.Berezkin氏(復旦大学文史研究院)との交流をつうじ、氏自身のものをはじめ、多くの宣巻の研究成果を入手した。

___金華道情 宣巻と異なり、元来、文字テキストをもたない口承文藝であるが、現地の研究者である張根芳氏が数種の作品を書き起こして刊行されており、この提供を受けた。このうち『金華道情攤頭集』によって、磯部が翻訳を行なった。

___婺劇 現地調査において、金華市芸術研究所長である包昇華氏から、テキストを含む多くの資料の提供を受けた。また、金華の古書店で写本の台本を入手した。実地調査とこれらの資料による研究成果と、別に行っていた清朝宮廷演劇の台本の研究成果とを総合することによって、磯部が新しい境地を開いた。

___社会史 要木(藤田)が中心となり、紹興や金華およびその周辺の地方志や明清期江南の社会史の資料および研究成果も参照した。

4. 研究成果

ここでも、上記3-(4)と同じく、宝巻、紹興宣巻および宣巻全般、金華道情、婺劇に分けて述べる。

(1) 宝巻

宝巻については、とくに小南が、『香山宝巻』と『銷積金剛科儀』について、これらのテキストを丁寧に読み解き、前者についてはこの作品を支えた女性たちの精神世界に分け入り、後者についてはその儀式のありかたを明らかにした(下記5 -)。

(2) 紹興宣巻および宣巻全般

紹興宣巻では、今日、「三包」すなわち『割麦宝巻』『売花宝巻』『売水宝巻』がたいへん多く、あるいはもっぱらといってもよいほど頻繁に、演じられている。これについて、磯部は、実地調査について詳細な報告を行ない、あわせて調査時に入手した数種のテキストを詳細に比較して、今日の紹興宣巻の実態を生き生きと描きだした(下記5 -)。松家は、「小目連」と呼ばれることなど、実地調査で得られた知見を最大限に生かして、『太平宝巻』について考察し、この宝巻が横死した人の魂を慰める(「孤魂の慰撫」)機能をもつことを検証した(下記5 -)。さらに、これをヒントに、「三包」のいずれにも孤魂の慰撫の場面が見られることを指摘、孤魂の慰撫によって、紹興宣巻全体を解くことができる可能性を示唆した(下記5 -)。

紹興宣巻の宗教性は、信仰の混乱ともみえる混淆の度合いなどから、低く見積もられることが多いが、そうではないことが明らかになったといつてよいであろう。

(3) 金華道情

金華道情については、磯部が『金華道情攤頭集』によって、7篇の日本語訳を作成、実地調査における見聞とあわせて、「金華道情の現状」として発表した(下記5 -)。これだけまとまって金華道情が、方言を乗り越え、日本語に翻訳されるのははじめてではないかと思う。

(4) 婺劇

婺劇については、2012年2月29日、麗水市遂昌県において、祝祭劇としてのかたちをよく保った、村主催の上演に接することができたことは大きな収穫であった。そこで、松家がこの調査を、「婺劇観劇記 2012年2月・浙江省遂昌」として報告した(下記5 -)。

一方、磯部は、別の科研費研究(特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」)で行っていた清朝宮廷演劇の台本の読み解きと、この実地調査で得た知見を照らし合わせ、「宮廷劇と民間劇の類似」(下記5 -)を発表した。

これらの成果はみな実地調査なくしては得られなかったものである。実地調査の実現と成功に協力されたすべての人に感謝したいと思う。

これらの中には、国外の研究者であつてはじめて公表し得たものも含まれている。本研

究については、その成果をまとめた冊子体の研究成果報告書を刊行したので、詳細はこれを、matuka@res.otemon.ac.jpへ請求、参照されたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計16件)

松家裕子、紹興宣巻の調査報告—現代中国における唱導文藝のひとつのありかた—、説話・伝承学、第22号、査読有、2014年4月、pp.206-224

松家裕子、『太平宝巻』全本宣巻調査報告—2013年3月・紹興安昌鎮大和班、中国江南唱導文藝研究—上演・テキスト・信仰—(本科研究費研究報告書) 査読無、2014年3月、pp.33-48

小南一郎、初期の宝巻—銷積金剛科儀を中心に、中国江南唱導文藝研究—上演・テキスト・信仰—(本科研究費研究報告書) 査読無、2014年3月、pp.5-14

磯部祐子、金華道情の現状、中国江南唱導文藝研究—上演・テキスト・信仰—(本科研究費研究報告書) 査読無、2014年3月、pp.49-102

要木(藤田)佳美、解放前の桐郷の商業についての調査報告、中国江南唱導文藝研究—上演・テキスト・信仰—(本科研究費研究報告書) 査読無、2014年3月、pp.131-150

要木(藤田)佳美、桐郷・湖州における民間芸能についての調査ノート、中国江南唱導文藝研究—上演・テキスト・信仰—(本科研究費研究報告書) 査読無、2014年3月、pp.151-152

磯部祐子、宮廷劇と民間劇の類似、富山大学人文学部紀要、第60号、査読無、2014年、pp.27-40

松家裕子、物語りの力を信じる者—魯迅と宣巻の紹興、アジアの都市と農村、和泉書院、2013年10月

松家裕子、紹興の小目連『太平宝巻』安昌鎮大和班の宣巻調査から、『桃の会論集、六集、査読無、2013年10月、pp.201-218

松家裕子、婺劇観劇記—2012年2月・浙江省遂昌、(追手門学院大学)アジア観光学年報、第14号、査読無、2013年3月、pp.100-112

磯部祐子、略論節戯中の月令承応戯、古典戯曲辨疑と新説国際学術研究会論文匯編、査読無、2012年、pp.163-181

磯部祐子、紹興宝巻—以三包寶巻为中心的相關調査、(韓国・中国言語文化学会)中国言語文化、査読無、創刊号、2012年、pp.151-172

磯部祐子、紹興の宝巻—「三包宝巻」を中心に、『桃の会論集、五集、査読無、2011年11月、pp.57-72

磯部祐子、紹興宝巻、東亞地域民俗祭典

與戯劇文化論文集、査読無、2011年、pp.241-260

小南一郎、香山宝巻—観世音菩薩の中国的生涯、桃の会論集、五集、査読無、2011年11月、pp.101-114

松家裕子・仇俊共、顧希佳著、紹興安昌の宣巻調査、(追手門学院大学)アジア学科年報、第5号、査読無、2011年、pp.40-79

[学会発表](計5件)

松家裕子「紹興宣巻の上演・テキスト・信仰—『太平宝巻』の例—」中国古典小説研究会関西例会、2014年2月10日、キャンパスプラザ京都

松家裕子「紹興宣巻の調査報告—現代中国における唱導文藝のひとつのありかた—」説話・伝承学会、2013年4月28日(日) 静岡文化芸術大学

松家裕子「紹興の小目連『太平宝巻』、桃の会、2013年3月23日、楽友会館

磯部祐子「宮廷劇と民間劇の類似—金華婺劇調査から—、特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」第12回研究会、2012年4月21日、東北大学東京分室

磯部祐子「紹興宝巻」、第九届中国地域文化與語言国際学術研討会、2011年11月2日、漢陽大学、ソウル、韓国

[図書](計1件)

松家裕子・小南一郎・磯部祐子・要木(藤田)佳美『中国江南唱導文藝研究—上演・テキスト・信仰—』(本科研究費研究報告書)2014年、pp.151-152

6. 研究組織

(1)研究代表者

松家 裕子 (MATSUKA, Yuko)
追手門学院大学・国際教養学部・教授
研究者番号：20215396

(2)研究分担者

小南 一郎 (KOMINAMI, Ichiro)
泉屋博古館・館長
研究者番号：50027554

磯部 祐子 (ISOBE, Yuko)
富山大学・人文学部・教授
研究者番号：00161696

(3)連携研究者

要木(藤田)佳美
(YOGI(HUJITA), Yoshimi)
島根大学非常勤講師
研究者番号：

この研究は、このほか多くの中国側の協力者によって成り立っている。この場を借りて衷心よりの感謝を申し上げます。